

# さいたま 来ぶらり通信

## Contents

美しき貨幣の世界 造幣さいたま博物館へ ……	1,2	本棚ぶらり テーマ「お金」 ……	3
第22回現代短歌新人賞/調べものに便利! オンラインデータベース ……			4

わがまち

はっけん

Sai 発

美しき貨幣の世界



造幣さいたま博物館へ

さいたま市のなかでも比較的新しい見どころと言える、造幣さいたま博物館。こちらには 200 種類にも上る記念貨幣や技巧を凝らした勲章など、目を引く展示がたくさんあります。今回はあまり知られていない貨幣のお話とともに、博物館の魅力をお届けします。

## 造幣局ってどんなところ？

2021（令和3）年11月、偽造防止効果を高めた新しい500円貨幣が発行され、話題になりました。日本で貨幣を製造しているのは独立行政法人造幣局（以下、造幣局）です。造幣局は大阪市に本局、広島市及びさいたま市に支局があり、さいたま支局は2016（平成28）年に東京都豊島区からさいたま市大宮区に移転してきました。敷地内には、無料で見学のできる造幣さいたま博物館もあり、平日は、博物館と直結する工場見学通路から、貨幣や勲章の製造工程も見学することができます。

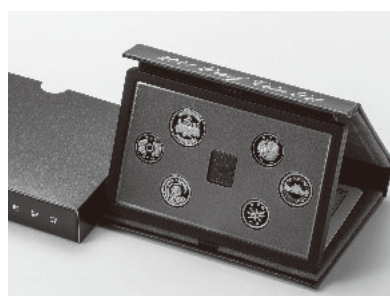
## プルーフ貨幣を知っていますか？

造幣局では本局、支局それぞれで、流通貨幣（一般に流通する貨幣）の製造を行っています。製造場所を分散確保しておくことで、不測の事態の際にも貨幣製造を続けることのできる態勢がとられています。

さいたま支局ではプルーフ貨幣を中心に製造するとともに、勲章の製造やアクセサリーなどの貴金属製品の品位証明（製品に含まれる貴金属の純度の割合を分析する試験を行い、試験に合格した製品に品位証明記号を打刻する）なども行っています。

プルーフ貨幣とは、特殊な技術により、表面（凹部）

に鏡のような光沢をもたせた収集用の貨幣のことです。国内のコレクターからの要望を受け、1987（昭和62）年から日本でも製造されるようになりました。現在はスタンダードな通常プルーフ貨幣セットのほか、アニメや特撮ヒーローのキャラクターのプルーフ貨幣セットも販売されており、最近では仮面ライダー生誕50周年を記念した製品も人気を博したそうです。このプルーフ貨幣も流通貨幣と同様に使用することができます。



通常プルーフ貨幣セット [年銘板(有)]。500円、100円、50円、10円、5円、1円それぞれのプルーフ貨幣と製造年入りのメダル（純銅製年銘板）が専用ケースに収納されている。

## 豆知識

### 貨幣の再利用

汚れや摩耗がひどくなった貨幣は、市中銀行で新しいものと交換できる。市中銀行から日本銀行に戻された貨幣は、造幣局に送られ、溶かして再利用される。

## 造幣さいたま博物館の見どころ

館内には、日ごろ目にする機会の少ない貴重な展示物が数多くあります。ここではその一部を紹介します。

### 日本の記念貨幣

文字通り、記念になるような国家的な行事や出来事があったときに発行されるのが記念貨幣です。1964（昭和 39）年発行の東京オリンピック記念貨幣に始まり、これまで 200 種類以上の記念貨幣が製造されてきました。館内にはそれらのほぼすべてが展示されています。記念貨幣の素材は銀や銅（純銀や白銅も含む）が主ですが、純金で製造されているものもあり、展示ケースのなかでもひとときわ輝いて見えます。近年、パッド印刷という方法を利用して色をつけた記念貨幣（カラーコイン）も製造されるようになり、新たなファンを獲得しているそうです。



地方自治法施行 60 周年を記念し、2008（平成 20）年から 8 年間かけて各都道府県の記念貨幣が製造された。上の写真は埼玉県のもの。渋沢栄一（左、直径 40 mm）と埼玉スタジアム 2002（右、直径 26.5 mm）が刻まれた 2 種類がある。コレクター心をくすぐるシリーズである。

### 参 考 資 料

『日本の記念貨幣』 独立行政法人造幣局 2019 年  
『独立行政法人造幣局さいたま支局のご案内』  
独立行政法人造幣局さいたま支局 2020 年

### 勲章・褒章



文化勲章

勲章・褒章は、国や公共に対して功労のある方やさまざまな分野で優れた行いのある方に授与されるものです。展示された勲章・褒章の美しさは思わず息をのむほどです。



工場内の勲章製造の様子。勲章・褒章は造幣局の熟練の職員たちによって、一つひとつ手づくりされている。工場見学の際にタイミングが合えば、見学通路からガラス越しに製造の様子を見ることがもできる（博物館休館日を除く平日）。

### 豆知識

### 高度経済成長と外国貨幣

国内の流通貨幣の製造量は、高度経済成長期にピークを迎えた。高度経済成長期には自動販売機が普及したり、勤め人への給料の現金手渡しが一般的であったりしたため、貨幣の需要が高まったのである。その後徐々に製造量は減少したものの、貨幣製造技術の維持・向上や国際協力を図る観点から、国内の流通貨幣の製造に支障のない範囲で、外国貨幣の製造を受注し、生産を行うようになった。写真は 2007（平成 19）年に戦後初めて造られた外国貨幣「1 ニュージーランド・ドル記念銀貨幣」である。館内には、これまでに造幣局で製造されてきた外国貨幣の数々も展示されている。



取材協力・写真提供：独立行政法人造幣局さいたま支局

造幣さいたま博物館 <https://www.mint.go.jp/>  
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町 1 丁目 190 番地 22  
TEL 048-645-5899（祝日を除く月～金曜日）  
TEL 048-645-5990（土・日曜日、祝日）  
開館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）  
休館日 毎月第 3 水曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）



※博物館休館日を除く平日は見学通路から工場を見学できますが、時間帯や業務の都合などにより見られない場合もあります。

※臨時休館や団体での見学の手続きなどの情報はホームページや電話でご確認ください。